

安城＝母だった。でも、母がいなくなっても、やっぱり安城は特別な地。



● 山本正之さん

安城市出身のミュージシャン。今月の10日(土)に、歴史博物館で講演会を開催。



高校時代の友人
早川健一さん
(和泉町)



マーくんは、音楽活動のほか、劇団を主宰するなど多芸多才ぶりを発揮。でも、曲のイメージと違って、とても繊細な心の持ち主でもあるんですよ。



「遠い夜空にこだまする」
ファンならずとも毎年耳にする「燃えよドラゴンズ」。いつまでも親しまれているこの曲を作ったのが、安城市出身の山本正之さんです。4月に地元でのコンサート「最後の伝言「い・い・よ」のため、また安城に帰ってきてくれました。

——やはり「燃えよドラゴンズ」のこのから伺いたいんですが？

アマチュアの時、ラジオ番組が応援歌を募集していると先輩から言われ、

送って見たら、大ヒット曲に。本当はそんな募集自体なかったんですけどね。先輩にうまく乗せられました。今ではライフワークになりつつあります。仕事にはまったく口を挟まない妻も、この曲にだけは意見を言うんですよ。○○選手はお気に入りだから歌詞に入れて」とかね。

——その後、アニメ「タイムボカン」

主題歌も大ヒット。活動の場を広げ、東京暮らしも長くなりましたが、外から見て安城の印象は変わりましたか？
見た目は変わったかもしれないけど、

空気のおいとか、窓を開けたときの光とか、原風景は昔のまま。畳があり、寝ころがる所があり、そして何より母がいた。この安息の地に2、3日滞在しては、また戦場のような東京に戻る。いつもそんな気分でしたね。

——そのお母さんが昨年亡くなられたそうですが。

しばらくは、かなり落ち込みました。最近になりやっと立ち直りかけているところです。母の死を受け入れるために、ふるさと安城でコンサートを開き、自分の気持ちに区切りをつけたくなりました。母に許しを得るために。もうそろそろ思い出しにしてもいいかなって。母は答えてくれました。
「い・い・よ」